

"ハーフ"と呼ばれる青年2人の、
欠けていた半分を満たす出会い

俺は日本人や



WHOLE ホール

サンディー 海 川添 ウスマン

伊吹 葵 菊池 明明 尾崎 紅 中山 佳祐 松田 顕生

監督・編集:川添 ビイラル 脚本:川添 ウスマン

プロデュース:川添 ウスマン/川添 ビイラル アソシエイトプロデュース: JRT/中村 礼/YURAPOI ゆらぽい

撮影・照明:武井 俊幸 録音:松野 泉 助監督・美術:藤原 達昭/青木 ありき

制作担当:井辻 悠輔 メイク・衣装:稗田 梓 撮影助手:石田 葉子 監督助手:前田 育穂

ケータリング:西岡 優一郎 スチール:ガブリエラリエ ヨシモト クルーズ

主題歌:「Wouldn't It Be Great」 rei brown

配給宣伝:アルミード

2019年 / 日本 / カラー / 44分 / 16:9 / Stereo © 078

公式HP:<https://www.whole-movie.com/>



映画「WHOLE」上映会



出演者と参加者のクロストーク

セルフポートレートの意義
セルフサポートの意味

「多様性の尊重」や「ダイバーシティ」という言葉がもてはやされる世相のなかで、
稚拙な「外国人」理解によって括られ、生きづらさを抱え日々を過ごす人々がいる。

「多様性の尊重」や「ダイバーシティ」が、たんなる言葉遊びにならないためには
多くのまなざす側がみたい「違い」ではなく、

数少ないまなざされる側が、みずからの「違い」を表現し発信できること、
まずは自分たちの姿を自分たちで描くことの大切さがあると考えます。



川添ビイラル

兵庫県神戸市出身。ビジュアルアーツ専門学校放送映画学科を卒業。卒業制作『波と共に』(2016)が第69回カンヌ国際映画祭ショートフィルムコーナーに選出される。卒業後、現場通訳や助監督としてキャリアをスタートし、世界的に有名な映画監督の元で映画制作の仕事に従事する。日本で過ごすハーフの青年の葛藤を描いた物語『WHOLE／ホール』(2019)が第14回大阪アジア映画祭インディー・フォーラム部門にてスペシャル・メンションを受賞。北米最大の日本映画祭JAPANCUTS 2019へ正式出品され、2021年に劇場公開デビューを果たす。現在は東京と大阪を拠点とするフリーランスディレクターとして幅広く活躍しつつ、初長編映画を準備中。



サンディー海

日本生まれ日本育ちの俳優・フィルムメーカー。シアトルのコーニッシュ大学で演劇を学び東京に戻ってくる。東京に移住間もなく大根仁監の『奥田民生になりたいボーイ』で映画俳優のキャリアがキックオフされる。最近ではNHK時代劇『わげもん』で吉次役を務め、NHK大河ドラマ『いだてん』では話題のヤコブ役で出演をした。2021年には主役を務める作品『WHOLE／ホール』とミラーライアーフィルムの『POINT』が劇場公開された。



川添ウスマン

兵庫県神戸市で生まれ、コンテンツクリエイターとしてキャリアを始める。映画『WHOLE／ホール』のプロデューサー・脚本・主演を務めた後、進路を変える決意をし、2019年にプロのフォトグラファー・カメラマンとしてデビュー。映画以外のドラマやドキュメンタリーの現場にも参加しつつ、自らプロジェクトを企画し、撮影をしている。

ハーフの若者の日常をすどい感覚と温かい目で見つめ、映画・「WHOLE」に昇華させた当事者でもある川添ビイラル監督と主演の川添ウスマンさん、サンディー海さんを招き、「WHOLE」制作についての思いや今の日本社会について、監督、主演者、参加者が語れる場をつくりたいという思いから本企画は生まれました。本企画が、自らを描くその先に、自らだけでない人を支える力、当事者として自らにかかわる課題をふまえ、人を支える力が生みだされること、セルフサポート、セルフサポーターの意味を深める機会になれるよう多くの方の参加をお待ちします。

10.17²⁰²³〈火〉

参加
無料

17:00開場／17:30開演 (定員80名・先着順)

18:40クロストーク (1時間程度予定)

英語字幕・通訳あり

お申し込み



Registration
(English)



《お問い合わせ》
笹川平和財団
✉ asia@spf.or.jp

会場：笹川平和財団ビル
11階 国際会議場

〒105-8524 東京都港区虎ノ門1-15-16

■東京メトロ銀座線「虎ノ門駅」下車
「2b・4・12出入口」より徒歩1分

主催：公益財団法人笹川平和財団

NPO法人神戸定住外国人支援センター(KFC)

※本上映会は公益財団法人笹川平和財団2023年度
「新人流時代の共生社会モデル」事業のひとつです。

